



バイオ液肥「みのるん」 家庭菜園用施肥方法



福岡県みやま市 (監修:佐賀大学農学部)



みやま市バイオマスセンター

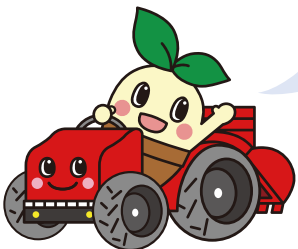


をご紹介します！



みやま市バイオマスセンター「ルフラン」は 循環のまちづくりの拠点施設です。

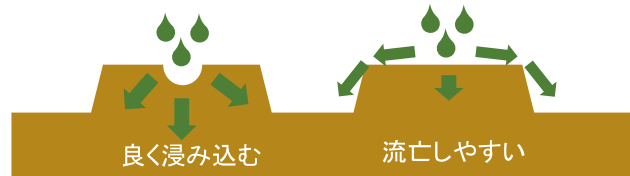
みやま市バイオマスセンター「ルフラン」では、一日当たり家庭・事業系生ごみ10トン、し尿42トン、浄化槽汚泥78トンの合計130トンを受け入れ、生ごみなどを分解し、メタンガスを発生させます。発生したメタンガスを利用してコジェネ発電を行い、施設内の電力と温水として活用します。発酵後の液体は、液肥として水稻、麦、ナス、菜種、レンコン、筍などの栽培に利用します。



5 液肥を使うための畑の準備

○ うねの形に一工夫

露地の畑で野菜を栽培する際は、水はけをよくするように畝（うね）を作るのが一般的です。液肥を散布するときは、畝が高すぎて液肥が流れてしまわないことが大切です。



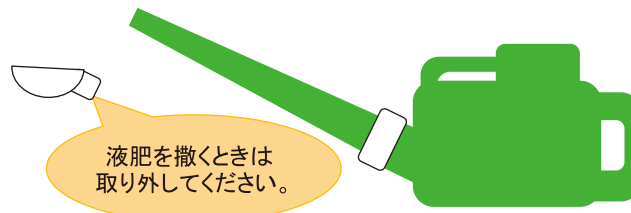
畝の上に溝やくぼみがあると液肥が浸み込みやすくなります。



畝の幅が広いと液肥は浸み込みやすくなります。

6 液肥のまきかた

液肥を畑へ散布するには、ジョウロやバケツなどを使って簡単に散布することができます。ただし、液肥には細かい繊維質が含まれています。ジョウロを使う場合は、先端のシャワーを取り外して使用してください。



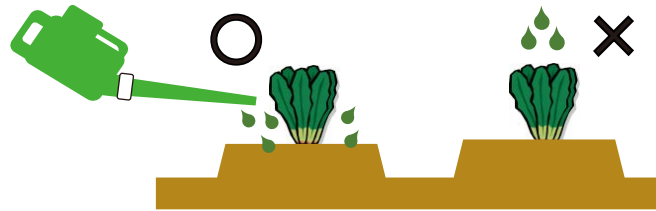
○ 液肥の散布は「少量で多回数」が効果的

液肥の散布量は、野菜の種類によって異なります。基肥として用いる場合は、本葉が2~3枚開いたころから散布を始めると効果的です。また、一度に散布をする液肥の量は、必要量の30%程度にとどめておき、散布回数を2回~3回に分けて、日にちをあけて散布するとより効果的です。その分、手間は増えますが、肥料の利用効率が高くなり、植物の生育は良好になります。

固形の肥料のように、あらかじめ畑に散布をしておき、それから播種をすることも可能です。

○ 液肥は野菜の株元へ散布する

液肥は野菜の株元へ散布してください。植物へ直接かかっても枯れたりはありません。ただし、液肥に含まれている繊維質が葉に付着しますので、できるだけ植物にはかからないようにしてください。

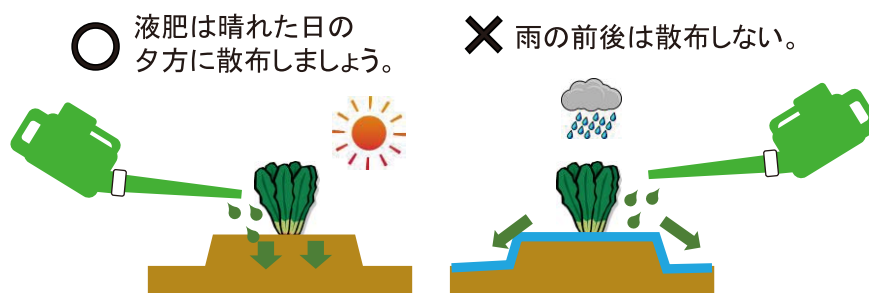


液肥は株元へ散布しましょう。

○ 天気が良い時に液肥を散布しましょう

液肥を散布する際は、天気の良い日を選んでください。これから雨が降るようなときや雨の後は、液肥の散布を控えてください。

液肥を散布した後に雨が降ると、土壌中へ浸透する前に洗い流されてしまう可能性があります。また、雨のあとで土壌が十分に水を含む状態では、液肥を散布しても土の中へ浸透せずに流亡する可能性が高くなります。また、雨の前後に液肥を散布して土の中へ浸透したとしても、土壌中の水分量が高い場合は肥料の利用が進まなくなる可能性が高くなります。以上の理由から、液肥は天気の良い時に散布をしてください。



○ 土の湿りぐあいは大切

畑地では、土壌中の水分管理が大切です。加湿でもなく、乾燥している状態でもない、ちょうどよい土壌水分を保持することを心掛けなければなりません。

土壌中の水分量が多すぎる場合は、嫌気状態となって、土壌中の有機物の分解や無機物の酸化が停滞します。その結果、湿害が発生し、植物の根に悪影響を及ぼす可能性が高くなります。

このような現象は、液肥に限らず、堆肥や化学肥料を使用する場合でも十分に注意をする必要があります。

おくら



液肥の散布量: 13 リットル/m² (1 作あたり)

和名をアメリカネリと言い、ほかに陸蓮根(おかれんこん)とも呼ばれています。若い果実を食用とし、大きくなりすぎると繊維が発達して食感が悪く、食品価値を失います。

基肥は定植後に1m²あたり7リットルを2回から3回に分けて散布します。追肥1回目は収穫が始まったところに行い、それからは20~25日毎に実施してください。1回あたりの追肥量は1m²あたり1~2リットルです。

<おくらの作型例>

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
普通					○									露地に直播き

○播種 ■ 収穫

<おくらの液肥施肥量>

作型	基肥			追肥1回目		追肥2回、3回目	
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸 石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリ ウム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリ ウム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリ ウム (kg/10a, g/m ²)
普通	7	7	10	1	1	2	1

<液肥散布量の見方>

t/10a → 10a(1反)当たりの散布量 トン

L/m² → 1m²当たりの散布量 リットル

<施肥のポイント>

液肥は、窒素主体の肥料です。不足する成分は化成肥料で補って下さい。

- リン酸:「過リン酸石灰」
- カリウム:「塩化カリウム」

かぼちゃ

液肥の散布量：5～8リットル/m²（1作あたり）



栽培は、春に播種して夏から秋にかけて果実を収穫します。野菜の中でも特に強健で、こぼれ種から発芽することもあります。栽培法はいたって簡単です。無農薬栽培も可能です。カロリーの高いかぼちゃは、栄養たっぷりの果菜です。

基肥は定植後に1m²あたり4～7リットルを散布します。追肥は着果直後に1m²あたり1リットルを散布してください。

<かぼちゃの作型例>

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
早熟			○	×	-----		■						トンネル栽培
抑制								○	-----		■		露地栽培

○播種 ×定植 ■収穫

<かぼちゃの液肥施肥量>

作型	基肥			追肥	
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)
早熟	7	63	21	1	3
抑制	4	79	23	1	4



キャベツ



液肥の散布量:11リットル/m² (1作あたり)

季節に合わせた品種が定着しており日本各地で一年中栽培出荷されています。とても馴染みの深い野菜ですが、青虫による植害が簡単に発生しますので、農薬使用か防虫ネットなどの対策が必要です。家庭菜園では、作型を「秋まき～春出」にすることによって虫害を減らすことが可能です。

液肥は、基肥として定植後に1m²あたり7リットルを散布します。1回目の追肥は定植して20～25日後に2リットルを散布してください。

2回目の追肥は結球開始直前に2リットルを散布してください。

＜秋まき～春出キャベツの作型例＞

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
春出	-----			■	-----				○	×	-----		
初夏出	-----			■		-----				○	×	-----	

○播種 ×定植 ■収穫

＜秋まき～春出キャベツの液肥施肥量＞

作型	基肥			追肥1		追肥2	
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石 灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウ ム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウ ム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウ ム(kg/10a, g/m ²)
春出	7	66	17	2	6	2	9
初夏出	7	66	17	2	6	2	9

きゅうり



液肥の散布量：10～12リットル/m²（1作あたり）

古くから食べられている馴染みある野菜です。温暖な気候を好み、10～25℃の温度で栽培可能です。雄花と雌花が咲きますが、単為結果のため、雌花だけで結実します。

基肥は定植後に1m²あたり6～7リットルを2回から3回に分けて散布してください。追肥は、かん水を兼ねて15～20日ごとに施用してください。1回あたりの追肥量は1m²あたり約1リットルを目安にし、水を加えて適当に希釈をして散布してください。

<きゅうりの作型例>

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
夏キュウリ				○--x---			■						平坦地露地栽培
秋キュウリ						○--x---							雨よけハウス栽培

○播種 ×定植 ■収穫

<きゅうりの液肥施肥量>

作型	基肥			追肥追肥(1回 15～20日毎)		
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石 灰(kg/10a, g/m ²)	塩化カリウ ム(kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石 灰(kg/10a, g/m ²)	塩化カリウ ム(kg/10a, g/m ²)
夏キュウリ	7	43	17	0.87	3	1
秋キュウリ	6	90	9	0.87	—	1

小ねぎ

液肥の散布量: 14 リットル/m² (1 作あたり)



ネギ(葉ネギ)を若取りしたもので1年を通して安定した需要があります。面積当たりの散布量が多い理由は、圃場全面に密植播種して栽培を行うためです。基肥の散布量は 1m²あたり14リットルを散布します。一度で全量を散布せず、3回ほどに分割し、数日おきに散布をしてください。

＜小ねぎの液肥施肥量＞

作型	基肥		
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)
周年	14	37	26

スイートコーン

液肥の散布量: 15 リットル/m² (1 作あたり)



実に含まれる糖分が多いとうもろこしの品種グループ(甘味種)です。スイートコーンは収穫後数時間で糖分が半減し、急激に甘みが減ってしまいます。これはスイートコーンが生きていて呼吸をしており、呼吸に必要なエネルギーとして自分の糖分を使ってしまうからです。収穫後は直ちに低温にすることである程度防ぐことができますが、できるだけ早く食べましょう。

スイートコーンはたくさんの肥料を吸収します。基肥は、定植して2週間程度の間に 11 リットルを目安に散布してください。その後、1週間間隔で2リットルずつを散布してください。

＜スイートコーンの作型例＞

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
半促成		○	×	-----	■								ハウス, トンネル 移植栽培
早熟			○	-----	■								トンネル栽培
普通				○	-----	■							露地栽培

○播種 ×定植 ■収穫

＜スイートコーンの液肥施肥量＞

作型	基肥			追肥1		追肥2	
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石 灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウ ム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウ ム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウ ム (kg/10a, g/m ²)
半促成	11	78	34	2	7	2	—
早熟	11	78	34	2	7	2	7
普通	11	78	34	2	7	2	7



たかな

液肥の散布量：12リットル/m²（1作あたり）



三池たかなは、耐寒性にすぐれた生育旺盛収種で、春先の収穫時には1メートル近くまで成長することもあります。即効性肥料として液肥の使用に向けた作物です。基肥は定植後に1m²あたり7リットルを、2回程度に分けて散布します。追肥は1月中旬から2月中旬に1m²あたり5リットルを散布します。

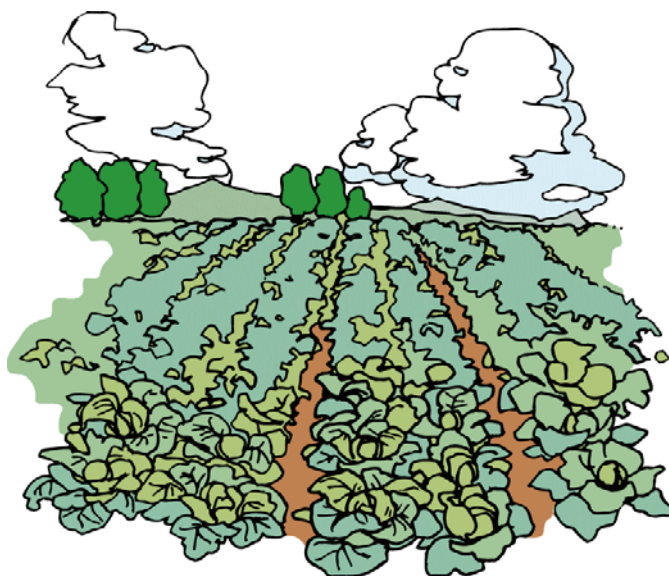
＜たかなの作型例＞

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通	-----			■						○-----×		

○播種 ×定植 ■収穫

＜たかなの液肥施肥量＞

作型	基肥			追肥 1		
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)
普通	7	37	10	5	26	16



たまねぎ



液肥の散布量：約 8～10 リットル/㎡（1 作あたり）

九州では秋まき栽培が一般的です。9 月頃に播種し 10 月から 11 月にかけて定植し、翌年 3 月～6 月にかけて収穫します。近年ではベト病が広まっています。発症の可能性のある株を見つけた場合は直ちに圃場から除去し焼却するなどの対応を取りましょう。

基肥は定植後に 1㎡あたり 4～5 リットルを 2～3 回に分けて散布してください。追肥は早出し作型で 11 月中旬～2 月上旬、普通作型で 1 月上旬～3 月上旬、貯蔵用作型で 1 月中旬～3 月中旬までに 1～2 回、分施してください。

＜たまねぎの作型例＞

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
早出				■					○			×
普通					■				○			×
貯蔵用						■			○			×

○播種 ×定植 ■収穫

＜たまねぎの液肥施肥量＞

作型	基肥			追肥1		追肥2	
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石 灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウ ム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウ ム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウ ム (kg/10a, g/m ²)
早出	4	63	14	3	10	1	4
普通	5	64	17	3	10	1	4
貯蔵用	5	70	17	3	10	2	7

ちんげんさい



液肥の散布量: 6 リットル/m² (1 作あたり)

中国野菜で 1970 年代に日本へ導入されました。露地では秋が旬とされ、生育期間が 40～50 日と短く、気温変化に比較的強いことから、周年栽培が可能です。日本国内でもハウス栽培の活用によって 1 年中市場に出回っています。家庭でも栽培でき、露地栽培やプランター栽培が適しています。アクが無く、煮崩れないため、炒め物のほかに、スープや煮込み料理によく用いられています。作型は「周年栽培」であり、1m² あたり 6 リットルを散布してください。

＜ちんげんさいの液肥施肥量＞

作型	基肥		
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)
周年	6	43	16

みずな



液肥の散布量: 4 リットル/m² (1 作あたり)

もともとは京都を中心にして食べられてきたアブラナ科の菜類です。本来は煮物で食されてきましたが、最近はサラダとして食べる品種が普及しています。福岡県は全国第二位の生産です。周年栽培可能ですが、生育初期～中期まで(～15cm くらい、播種～30 日くらいまで)は十分な水が必要です。ただし、収穫の時期が高温期にあると湿害が出やすくなりますので水のやりすぎには注意が必要です。元肥に 1m² あたり 4 リットルを散布してください。

作型	基肥		
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)
周年	4	39	17

トマト

液肥の散布量：10～12リットル/m²（1作あたり）



栽培の適温は、昼温が20～25℃、夜が10～20℃程度です。ハウスなどで加温をすれば冬を越すこともできます。1本に仕立てて、支柱に誘引して栽培する方法が一般的です。本葉の8葉から9葉目に最初の花房ができます。それからは、3葉おきに花房を付けます。各節位からは脇芽（側枝）が発生しますので、こまめに取り除いてください。また、トマトは病気にかかりやすく、ひび割れしやすいため、ビニールなどで屋根をかけて雨や泥はねを防ぐことをお勧めします。

基肥は定植後に1m²あたり5～6リットルを2回から3回に分けて散布してください。追肥は、**1m²あたり0.4リットル程度とし、奇数段(3, 5, 7, 9, 11)の花が咲いた頃に**合わせて、こまめに施用しましょう。

<トマトの作型例>

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
早熟		○	-----	x	-----	■	■	■						雨よけ栽培
普通				○	-----	x	-----	■	■	■				露地または雨よけ栽培
山間地抑制				○	-----	x	-----	■	■	■				同上

○播種 ×定植 ■収穫

<トマトの液肥施肥量>

作型	基肥			追肥 (1回あたり適時)	
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)
早熟	5	117	17	0.4	1.4
普通	5	117	17	0.4	1.4
山間地抑制	6	104	15	0.4	1.4

なす



液肥の散布量：約 14～19 リットル/m² (1 作あたり)

みやま市は、全国有数のなすの生産地です。年間を通して高い品質のなすが生産されています。液肥は、なすの栽培にも効果的に使用することができます。

基肥は定植後に 1m² あたり 7～9 リットルを、2 回程度に分けて散布してください。 追肥は、促成の場合、**11～3 月は 30 日間隔**で、全ての作型で、**4 月以降は 20 日間隔**で **1m² あたり 1.8 リットルを散布**してください。

なすは、基肥にリンをたくさん必要としますので、液肥だけでは不足がちです。**基肥では、リン肥料を追加することをお勧めします。追肥では、硫安とカリウムを追加することをお勧めします。**

<なす作型例>

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考	
促成	■						○	-----			×	■		ハウス加温栽培
早熟	-----		×	■								○	雨よけ栽培	
普通	○	-----			×	■						露地		

○播種 ×定植 ■収穫

<なすの液肥施肥量>

作型	基肥			追肥 (1 回 4 kg N 分)		
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	硫安 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)
促成	9	95	23	1.8	5.1	7.9
早熟	7	47	17	1.8	5.1	7.9
普通	7	47	17	1.8	5.1	7.9

にがうり

液肥の散布量：10～12リットル/m²（1作あたり）



一般的にはニガウリやゴーヤーと呼ばれ、和名は「つるれいし」と呼びます。栽培は、春に播種して夏から秋にかけて果実を収穫します。高温性の野菜で、湿害に弱く、腐植が多くて排水性に優れた土壌が栽培に向いています。

基肥は定植後に1m²あたり11リットルを2～3回に分けて散布してください。追肥は着果直後に1m²あたり1リットルを散布してください。それから以降は、草勢を見ながら2週間程度の間隔で追肥を行いましょう。

<にがうりの作型例>

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通			○	○	×	■	■	■	■			

○播種 ×定植 ■収穫

<にがうりの液肥施肥量>

作型	基肥			追肥	
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)
普通	11	111	34	1	1



はくさい

液肥の散布量:10~12リットル/m² (1作あたり)

播種は、晩夏から初秋に行い、初冬から春先にかけて収穫するのが一般的です。生育温度は20℃前後、15~17℃前後で結球が始まります。はくさいの根は、細く、非常に多く、広く、深く張り広がるため、作土層は深くて肥よくな排水良好な土壌が望まれます。アブラナ科のため、根こぶ病が侵入する可能性があるため、連作は避けるべきです。

基肥は定植後に1m²あたり7~9リットルを、2回程度に分けて散布してください。追肥時期は、冬出と晩出の場合、1回目は1本たちの時期、2回目は結球開始直前とします。春出は本葉5葉期に1回のみとします。

<はくさいの作型例>



作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋出								○	-----	■		
冬出									○	-----	■	
晩出	■	■							○	-----		
春出	○	×	-----	■	■							

○播種 ×定植 ■収穫

<はくさいの液肥施肥量>

作型	基肥			追肥1		追肥2	
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石 灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウ ム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウ ム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウ ム (kg/10a, g/m ²)
秋出	7	55	15	3	8	-	-
冬出	8	76	20	1	4	3	7
晩出	7	74	15	1	4	3	7
春出	9	60	19	3	8	-	-

ばれいしょ

液肥の散布量：約 8～10 リットル/m²（1 作あたり）



九州では春秋2回の栽培が可能です。秋まきでは高温期の定植で親いもが腐敗しやすいため、早期植え付けや畝たて栽培に向きます。ばれいしょは連作障害が発生しやすいため、ジャガイモの連作や、ナス科の植物との連作をさけてください。

基肥は定植後に1m²あたり5リットルを2～3回に分けて散布してください。
追肥は、春出の普通の場合、萌芽揃期に1m²あたり2リットルを散布し、中耕と培土を行います。

<ばれいしょの作型例>

作型		月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
春出	早熟		○	-----	■										トンネル、マルチ栽培。催芽して植え付ける
	普通			○	○	-----	■								
秋出										○	○	-----	■		高温植え付けを避ける。 畝たて栽培むき

○播種 ■ 収穫

<ばれいしょの液肥施肥量>

作型		基肥			追肥	
		液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)
春出	早出	5	35	18	—	—
	普通	3	43	13	2	6
秋出		5	35	20	—	—

ピーマン

液肥の散布量：12リットル/m²（1作あたり）



ピーマンはビタミンCが多く、カロテンも豊富です。かつては独特の風味がありましたが、最近の品種はマイルドな味に改良されています。緑色のピーマンは未熟なうちに収穫したもので、完熟させると、赤、オレンジや黄色になるものもあり、赤や黄色の方がビタミンCは増加します。ピーマンは高温を必要とします。夏野菜として楽しみましょう。

基肥は定植後に1m²あたり6リットルを2回から3回に分けて散布してください。1回目の追肥は定植から一か月後に1m²あたり3リットル程度を散布してください。2回目は8月初旬、3回目は9月初旬を目安に施用してください。

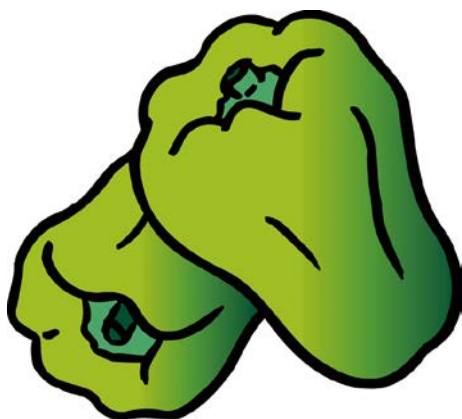
<ピーマンの作型例>

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通		○	-----	x		■						

○播種 ×定植 ■収穫

<ピーマンの液肥施肥量>

作型	基肥			追肥1		追肥2回目、3回目	
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウ ム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウ ム (kg/10a, g/m ²)
普通	6	57	12	3	11	3	10



ブロッコリー



液肥の散布量:10~16リットル/m² (1作あたり)

ブロッコリーはビタミンAのもとになるカロテンや鉄、カルシウムなどの栄養価が高い野菜です。とくに花蕾(からい)のビタミンCはレモンの約2倍とされています。近年は需要が増え、出回り量はカリフラワーの数倍となっています。

基肥として定植後に1m²あたり8リットルを、2回程度に分けて散布してください。追肥は2リットル/m²を散布しますが、散布回数と時期は、作型によって異なります。

初夏出、早出:追肥は花蕾形成直後に1回のみ。秋冬出:追肥の1回目は定植して15~20日後、2回目は花蕾形成直後。晩出:1回目は定植して15~20日後、2回目は30~40日後、3回目は花蕾形成直後。

＜ブロッコリーの作型例＞

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
初夏出			○	×	■							
早出							○	×	■			
秋冬出	■							○	×	■		
晩出			■						○	×		

○播種 ×定植 ■収穫

＜ブロッコリーの液肥施肥量＞

作型	基肥			追肥 1~3回	
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)
初夏出	8	35	23	2	2
早出	8	39	22	2	2
秋冬出	9	48	22	2	2
晩出	10	55	30	2	2

ほうれんそう

液肥の散布量：6～16 リットル/m² (1 作あたり)



ほうれんそうは、春から初夏が 30 日、冬が 90 日で収穫できます。生育時期に低温となる春まきや秋～冬まきでは、保温のためにトンネル栽培をします。高温に弱く、25℃以上では立枯病などの病気が発生します。流通しているほうれんそうは、25 センチほどの出荷規格に合わせて「若どり」されたものが主流です。実際には 35 センチ以上に成長したもののほうがおいしいともいわれています。

液肥の散布量は、春出、夏出は 1m²あたり 6 リットルを目安に基肥のみ散布し、追肥は不要です。秋出から冬春出、冬出では、基肥と追肥で合計 10～16 リットルを散布してください。

<ほうれんそうの年間を通した播種～収穫の作型>

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春出	○	■		○	■							
夏出				○	■		○	■				
秋出										○	■	
冬春出	■						■	■	■		○	
冬出	■	■								○		

○播種 ■収穫

<ほうれんそうの液肥施肥量>

作型	基肥			追肥		
	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)	液肥 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)
春出	6	60	26	0	0	0
夏出	5	35	10	0	0	0
秋出	7	79	23	3	0	7
冬春出	7	79	23	3	0	7
冬出	13	125	40	3	0	8



レタス 液肥の散布量：9～12リットル/m²（1作あたり）

キク科のレタスは気温にデリケートな野菜です。気温 15～20℃でもっともよく成長します。季節によって国内産地が移りながら一年中出荷されています。九州では夏の高温期（5月～10月頃）を除く季節で収穫が可能です。

液肥の散布量は播種時期によって異なりますが、1m²あたり 9～12リットルを散布してください。

表. レタスの年間を通した播種～収穫の作型

作型 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋出								○	×		■	
冬出	■								○	×		■
早春出		■	■	■						○	×	
春出	×	×		■								○
初夏出		○	×		■							

○播種 ×定植 ■収穫

表. レタスを栽培するための液肥施肥量

作型	基肥のみで対応		
	液肥散布量 (t/10a, L/m ²)	過リン酸石灰 (kg/10a, g/m ²)	塩化カリウム (kg/10a, g/m ²)
秋出	9	66	21
冬出	11	68	33
早春出	13	82	38
春出	9	56	19
初夏出	9	66	21

液肥利用者の声

2 アールほどの家庭菜園で液肥を使っています。野菜だけでなく、果樹、庭の花にも使います。

液肥は簡単です。苗の植え付け後、2週間に1回ほど様子を見ながら、1株あたり1リットルほど、株元に散布します。

じょうろで散布しますが、液肥の細かな粒子で詰まるため、じょうろのフィルターは外します。

化学肥料よりも、野菜の味はおいしくなります。

(瀬高町山門)



開小学校の東側に設置してある液肥を利用して、玉ねぎ、大根、白菜、高菜、みず菜、ホウレンソウ、ブロッコリー等に使っています。

高菜は特に「ほこりました」。液肥で栽培した野菜は、美味しく感じます。また、液肥を使うと、土がほくほくして、柔らかくなります。

元肥、追肥の両方に使っていますが、液肥はチツソが主体なので、「484」や「NK7号」も組み合わせて施肥すると、更によくできます。孫が、液肥で作ったニンジンを甘いと言ってきて、嬉しかったです。

(高田町開)

当園には障がい者就労支援の作業活動の1つとして農作業部門があり、平成26年よりモニターとして液肥を使用しています。

平成30年は初の試みで、サラダほうれん草を栽培し、液肥を散布しました。8月上旬に土づくりに液肥を散布し、1ヶ月後に種まき、芽が出始め2週間ごとに苗に散布しました。

化学肥料と比べ野菜の生育が早く、みずみずしく、えぐみのない大きなほうれん草が収穫できました。

(山門清光園)



<お問い合わせ先>

液肥「みのるん」の利用方法	液肥の補充
みやま市環境衛生課循環型社会推進係 電話 0944-32-8575	みやま環境保全センター 電話 0944-88-8147